

編集後記

大学院前期課程に入学して半年位経過したある日、國村先生から1冊の本を頂きました。あの名著であるワッツ・ヅマーマンのPositive Accounting Theoryの本です。その後、大変、苦勞して少しずつ読み、会計学を研究するには会計制度はもちろんのこと、ファイナンス、経済学、計量経済学など、多くのことを勉強しないといけないことを学びました。その後、初めての就職した弘前大学で、着任して間もなく研究費で購入した本が、その訳書である『実証理論としての会計学』でした。この本がもっと早く出版されていたら、大学院時代、苦勞なく内容が理解できたのにと、英語が不得手な自分を振り返り、複雑な思いでほとんど本が並んでいない研究室の本棚に並べたことを覚えています。弘前大学には助手として赴任したので、通常の講義はなく外国書購読を担当し、この原書をテキストとして選びました。訳書を原書と比べると、幸いにも5章と6章が抜けており、それらを中心に当該講義を行いました。それが大学教員として初めて担当した講義であり、今から振り返ると、大変縁が深いものでした。須田先生とは、この名著とその訳書を通して、こうして初めて出会いました。その後、会計系やファイナンス系の学会で何度かお会いする機会があり、日本経営財務研究学会のご報告(2004年10月17日、明治大学)で、コメンテータを担当させて頂いたことも1度ありました。特に、本学会の前身であるディスクロージャー研究学会では長年に渡り、事務局長や副会長としてご尽力され、その関係でいろいろとご教授を受けました。もう少し私がいれば、余りご心配をお掛けすることなく学会運営を遂行できたこともあり、今更ながら後悔しています。

この追悼号にかかる事業は、柴前会長のご提案によって開始され、その後の理事会及び会員総会の議を経て、実施が決定しました。その決定時に学会誌の編集を担当していたこともあり、黒川現会長から当該事業の担当者としてご指名を頂き、柴前会長と首藤昭信先生にご相談にのって頂きながら進めてきました。大変、驚いたのは、原稿の依頼後、直ぐにほとんどの先生方からご快諾のメールが届き、須田先生のご人徳の高さに改めて感服しました。今回、多くの先生方に短い期間にもかかわらず原稿を作成していただき、ご寄稿いただきましたこと本当にありがとうございました。当該事業の遂行に少しでも関わらせていただく機会を頂きましたことに感謝しつつ、この追悼号を須田先生の墓前に捧げ、ご冥福を心よりお祈りしたいと思います。

故須田一幸先生追悼事業担当理事

吉田 和生